



## 夏の水ぶね

水上 芙季

(東京)

海中のごとき夕暮れ街ぞらに〈ビックカメラ〉のほの白き文字

顛顛が嫌ぢや嫌ぢやとつぶやけり濾過性病原体はびこる世

「距離を置き極力会話をしないこと」やさしく言はれ 生きてゐますが

「1000ppmを超えたら換気しましょう」。

二酸化炭素濃度の単位は ppm 測定器置いてひそけき職場

マスコットのミライトワの目は見てをりぬデジタルの文字〈1200ppm〉

「黄色い線の内側まで」と言はれても下がらぬ人をり豊かな日本

かなしみがわれの心へ不時着し1Kに深き霧立ち込めぬ

お百度ではないが毎晩数かぞふ楊貴妃めだか、南沼えび

立方体の中の立方体の水さかさ<sup>さ</sup>にえびは眠りてをりぬ

五ミリほどの貝殻背負ふ姫田螺つぎつぎ<sup>あ</sup>生れぬ夏の水ぶね

濃みどりのウイローモスといふ水草を水に放てばわつと来るえび

図書館の返却ポストを通りすぎ窓口へ行けり人を見たくて

感染者千人を超す東京で<sup>よ</sup>避けをり誰かの吹くしやぼん玉

休業中のワインの店はレジア湖に沈みしクロン村のやうなり

人類のゐない地球となるのかも〈休業します〉の貼り紙あまた

この夏の私

「Lucky Killmanjaro」と

いうバンドの曲を聴いている。

コンセプトは「世界中の毎日

をおどらせる」。ポップなサ

ウンドに思わず体が動く。お

薦めはたくさんあるが今日の

気分は「Drawing」。



## 疾く癒えよ

島本 敏子

(奈良)

このごろの私  
『羊は安らかに草を食み』  
という本を読み返している。  
私と同年配の老女三人が旅を  
する物語。北滴からの艱難辛  
苦の引き揚げ。そしてその友  
を巡る熱く崇高な友情が描か  
れ、魂が清められる。

起き出でて息子の顔に驚きぬ赤疹噴きて一面腫れる

生まれもつ「免疫不全症」に因るトラブルならむ心さやくも

何事が始まりてゐむ子の身体「皮膚炎」のみであると思へず

佐保川のさくら渦巻きふぶきけり逝きにし夫の広き背を消し

正体を見極めるため咽喉のポリプ四個摘出されぬ

「リンパ腫かも」医師の言葉をにはかには信じ難しも しっかりとせねば

どつと来る心配の波 否々と押し返すこと繰り返しをり

稚い莢唇わかに当てればビイビイとカラスノエンドウまだ音澄まず

眠られぬ夜更けにひとり牛乳を温めてをり雨を聞きつつ

常夜灯はちみつ色に点りをり眠る息子を窺ふやうに

通院で検査の続く子が笑ふ「ジェットコースターに乗ってるみたい」

車窓には鏡面のやうな池見え来<sup>く</sup> P E T 検査の予約の帰り

疾く癒えよそして自慢のそのので「天までとどけ」歌つて欲しい

黄緑の新芽きりきり巻き締めて風の中なる垣の山茶花

雨あとの五月のあした山茶花は新しき葉をゆるゆる解<sup>ほど</sup>く